

第22回富山県自殺対策推進協議会 議事録（発言）要旨

1 日 時 令和5年3月20日(月) 14:00~15:30

2 場 所 富山県民会館 401

3 出席者 委員 18名

4 議 事

(1) 富山県における自殺の現状と主な取組状況について

(2) 富山県自殺対策計画の中間評価と国の動向について

5 委員発言（要旨）

【高齢者対策】

- ・富山県では、高齢者の自殺死亡率が高く、経済的問題や孤独感が影響していると考えられる。そのため、高齢者にとって地域とのつながりを持つことが大切である。

【職域】

- ・労働局では労災保険の給付を行っているが、ここ数年、精神疾患を理由とした労災請求が右肩上がりとなっている。その理由として、ハラスメントが多く、特にパワハラが多いため、労働局としては、パワハラ対策に力を入れていく必要があると考えている。具体的には、企業にどのような行為がパワハラにあたるか周知し、また、社員等から相談があった場合、適切に対応していただくための環境整備をお願いしていく。
- ・労働組合で受ける相談の半分近くがパワハラに関する相談である。パワハラ防止法成立後、相談件数は少し減少したが、まだまだ多いのが現状。そのため、今後労働相談を通じて、自殺者数を減らしていくよう取り組んでいきたい。

【学校】

学校における相談業務は非常に専門性を要するため、小中学校へのスクールカウンセラーの配置は非常に助かっている。なお、スクールカウンセラーの配置率は100%だが、今後、勤務時間の増加等の対応をお願いしたい。

【その他】

- ・国や県等の自治体や専門機関が自殺対策に尽力したからといって自殺者がいなくなるわけではない。県民一人一人が当事者であり、ゲートキーパーである必要があり、一人一人が自殺対策に取り組んでいく必要がある。
- ・富山県は北陸三県の中で常に自殺死亡率が一番高い。その理由として、富山県民は生活保護受給のハードルが高いといった、同一性を求める県民性があり、それが自殺にも影響しているのではないかと。そのような県民性も踏まえて自殺対策をしていくことも必要と考える。
- ・富山市では、「富山市自殺対策総合戦略」に基づきゲートキーパー養成等を行っている。また、実際に実務に当たっている方の意見を聞くことが大切と考えており、高齢者部会や妊産婦部会等の様々な部会で現場の声を聴く事業を行っている。自殺対策として、最終的に自殺者を減らし、市民が生きやすいよう取り組んでいるところだが、自殺対策事業の効果把握が難しい。評価は自殺者数減少となっても、どの事業が自殺者数減少に結びついているのか把握することが難しいと感じている。